Global Eyes

何のために勝つのか

元 ラグビー日本代表キャプテン
廣瀬俊朗

2015 年、イギリスで行われたラグビーワールドカップで強豪・南アフリカを相手に歴史的勝利を収めた日本。そこには、周到な準備があった。

（2019 年 3 月 1 日開催、第 16 回「グローバル経営推進フォーラム」での講演から）

ラグビーに奇跡の勝利はない

2015 年 9 月 19 日、英国で行われたラグビーワールドカップ対南ア戦、相手チームには 2 メートルを超える選手もいる。経験、体格、スピードではとうてい勝てない。スマート、タフ、メンタルで挑むしかない。試合の終盤、29 対 32 で負けていた。そこに相手の反則。ペナルティゴールなら 3 点入って同点。エディー・ジョーンズヘッドコーチ（HC）の指示はペナルティゴールを狙え。だが、選手は自分たちの判断で 5 点入るトライを選んだ。そして、トライが見事決まり 34 対 32、劇的な逆転勝ちを収めた。

キャプテンのリーチ・マイケルが語った「ラグビーに奇跡の勝利はない、必然だ」。特別なことは何一つない。勝因はひと言で「準備」。

2015 年 8 月 15 日ラグビー国際強化試合／日本代表ー世界選抜（AFP ＝時事）

あこがれの存在になるために

12 年にエディー・ジョーンズ HC の新体制になった時に、キャプテンに指名された。次のリーチ・マイケルに引き継ぎ、彼のサポート役に回るまで 2 年間キャプテンを務めた。

キャプテンの重責を任されたとはいえ、ワールドカップでは 21 年間勝ったことがないチーム。皆と何度も話し合った。何のためにプレーするのか。たどり着いた結論は、「あこがれの存在になるため」。そして、「日本のラグビーファンを幸せにできる喜び」「日本ラグビーの新しい歴史を築いていく楽しさ」という 2 つの大義を掲げた。勝つためにプレーするのではなく、勝つことでファンにラグビーの素晴らしさを伝えたい。大義があれば、チームは動く。たとえ、どれだけきつくても、その先にある喜びを思うと頑張ることができる。

大義の下に次の 3 つが必要だと考えた。

第 1 にやりきる覚悟。大義のために日々地道な努力を重ねること。これがないと大義は語れないし、仲間からも信頼を得られない。

第 2 にどうやって強くなるのかというビジョン。過程がハッキリしていることが大事だ。

第 3 にハードワーク。ビジョンに向かってハードワークすることで、自信が生まれる。1 日 3 回の練習、試合の方が楽だと感じるほどだった。いつでもどこでもいろいろな機会を利